

18. 症状および兆候

文献

西田友美, 立山莉紗, 平ほう陽, ほか. 腹臥位保持中の苦痛に対する腰背部マッサージの効果. *日本看護学会論文集看護総合*. 2006; 37: 182-4. 医中誌 web ID 2007145532

1. 目的

長時間腹臥による腰背部痛へのマッサージの有効性評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (cross over) (RCT-cross over)

3. セッティング

A 大学の看護実験室 (大学名は記載なし)

4. 参加者

低体温期の標準体型成人女性 9 名 (21~23 歳)

5. 介入

室温 27.2±0.9℃、湿度 58.2±5.6%の実験室で実施。20 分間腹臥位にさせた後、腰背・頸・肩甲部に 5 分間のマッサージを行い、引き続き 60 分間腹臥保持を指示。無処置は 85 分間の腹臥位を保持。

Arm 1: マッサージ群 人数の記載なし

Arm 2: コントロール群 (無処置) 人数の記載なし

6. 主なアウトカム評価項目

心電図 (心拍変動)、脳波、快適度・苦痛度・腰背部痛の Visual Analogue Scale (VAS)

7. 主な結果

- 1) 脳波: リラックス感を反映する α_1 波と α_2 波の周波数はマッサージ実施時とマッサージ施術30後でコントロール群より有意に増加した。しかし、まどろみで増加する δ 波と θ 波、緊張時に増加する β_1 波と β_2 波は有意差を認めなかった。
- 2) 心拍変動: 交感神経系活性と副交感神経系活性を反映するLF、HF、LF/HFには有意差を認めなかった。
- 3) 主観的評価: 腹臥位直前と腹臥位終了時を比べると、快適度はコントロール群よりマッサージ群で有意に増加し、腰背部の痛みと苦痛度はマッサージ群で有意に軽減した。

8. 結論

腰背部のマッサージは、腹臥位保持患者をリラックスさせ苦痛を緩和させる介入法として有効である。

9. 論文中の安全性評価

記載なし。

10. Abstractor のコメント

腹臥位保持による腰背部痛と苦痛感に同部のマッサージが有効であることを客観的に示した研究である。網膜剥離術後など長時間の腹臥姿勢を強いられる患者ケアへの広がり期待され、看護の質の向上を図る観点から非常に興味深い。研究デザインも、腰背部痛モデルの作成方法、マッサージの施術方法、アウトカムの評価方法等の条件がよく工夫されており完成度は高い。ただ、被験者の数が少なかったことに加え、マッサージ群とコントロール群の人数と割付方法の記載がなかったため、ランダム化比較試験としての質のレベルを評価できなかった。また、脳波所見 (α 波増加) と相関する心拍変動の変化が得られなかったことは、副交感神経系の活性度を捉えるためのパラメーターの設定に課題を残したことを示唆している。しかしながら、マッサージの有効性を主観的評価のみならず脳波所見で裏打ちした本研究の意義は大きい。この成果を臨床場面で検証するとともに、患者満足度等の質的エビデンス構築の研究へと深化・発展させていただきたい。

11. Abstractor and date

藤井亮輔 2011.12.3